

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577800414		
法人名	医療法人社団千葉クリニック		
事業所名	グループホーム豊田		
所在地	山口県下関市豊田町大字中村7の1		
自己評価作成日	令和1年10月29日	評価結果市町受理日	令和2年5月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	令和1年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かで静かな環境の中でも施設の近隣にはスーパー・道の駅・温泉等利便性に富んでいる。各学校の通学路も近く、小学生から高校生の学生の行き交う姿を目にする。自治会の協力もあり様々な行事への参加をさせていただいている(地区のお祭り、町内の清掃、他)また、地域の子ども達や高校生の定期的な訪問や学校授業の「産業社会と人間」を当事業所で行う等、地元高校生との交流を深めている。他、毎月第3木曜日に認知症カフェ『オレンジカフェひまわり』の開催。消防署立ち合いにて夜間想定、日中の避難訓練、消火訓練を実施している。医療併設で緊急時や夜間の対応も充実。介護福祉士が中心に職員全員が理念を基本とした総合的な支援を行っている。利用者一人ひとりの思いを大切にし外出、外食支援等個別への柔軟な対応を実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の清掃作業や、夏祭り、ほたる祭り、敬老会などの地域行事への参加、事業所前で近所の人と一緒に見る花火大会、買い物時など、日常的に地域の人との交流を重ねておられます。保育園児や小、中、高校生など、幅広い年代の人が数多く来訪しておられる他、利用者が所属していたコーラスグループが来訪され、共に歌を歌って楽しんでおられるなど、利用者が地域の一人としての生活を継続できるよう支援しておられます。事業所が主催されるオレンジカフェでは、運営推進会議での検討などを通して、ボランティアなど関わられる人が増えると共に、職員も介護相談に応じられるなど、利用者や家族、地域の人、事業所の交流が広がっています。職員は、頻繁に屋外に出ようとする利用者とその都度、言葉かけをしながら一緒に歩かれたり、生家の墓参りに同伴したり、買い物外出をされるなど、利用者の思いに沿った、寄り添うケアに取り組んでおられます。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を玄関、共用空間、事務室に掲示し、パンフレットやホーム便りにも掲載している。職員採用時より理念を伝え、ことあるごとに職員全員で理念に触れ確認している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している他、パンフレットや事業所だより(年2回発行)にも掲載している。ユニット毎に毎年目標を掲げてケアに取り組み、課題が生じた時は、職員会議やカンファレンスで、理念に立ち戻って話し合い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、職員、利用者と一緒に清掃作業等参加している。毎年敬老会には職員と共に参加し、保育園児、小中学生ボランティア、職場体験等受入交流している。また、散歩、買い物時にはお店の方と挨拶を交わしたり立ち話をする。季節の野菜や花の差し入れが有る等、日常的に交流している。	自治会に加入し、地域の清掃作業に職員と利用者が参加し、事業所周辺の草取りやゴミ拾いをしている。地域の敬老会、夏祭り、ほたる祭り、文化産業祭等に出かけている。花火大会は事業所前に出て、椅子に腰を掛け、利用者も近所の人と一緒に花火を見て楽しんでいる。保育園児(遊戯会、ハロウィーンなど)や児童クラブ(歌、紙芝居等)の来訪がある。中学生の職場体験を受け入れ、利用者と買い物やおやつづくりをしている。月に2～3回、高校生が部活動として、グリーンのカーテンづくりや年末の窓ふき、レクリエーション(折り紙、ゲーム、カルタ、坊主めくりなど)で来訪している。利用者が所属していたコーラスの来訪がある。月1回事業所で開催しているオレンジカフェや、年1回のお楽しみ会に、利用者や家族、地域の人が参加して、演奏を聞いたり作品づくりをして楽しんでいる。管理者は認知症サポーター養成講座に参画するなど、地域の人の介護相談を担っている。災害が予想される時には自治会長が来訪して、避難準備の声かけをしてくれる他、日常的に来訪している。知人が利用者の人形の帽子を編んで持参しているなど、ボランティアや地域の人との交流が広がっている。近所の方が野菜や花を差し入れてくれたり、利用者と花の苗を植えたり、草取りをしている他、近隣の散歩や買物で、知人に会って挨拶をしたり、立ち話をしているなど、日常的に交流している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、入所相談、認知症サポーター養成講座等認知症の専門知識を活かし地域の方に情報提供している。毎月第3木曜日オレンジカフェを開催し、地域貢献への働きかけを行っている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員に評価の意義について説明し、職員会議ミーティング毎に話し合い自己評価に取り組んでいる。実践状況等確認する中で浮かび上がる問題点や疑問点への改善につなげている。	自己評価は、管理者が評価の意義について職員に説明し、全職員に自己評価をするための書類を配布し、記入してもらったものを、管理者がまとめている。自己評価をケアの振り返りの機会とし、重度化して身体介護が主になりがちな利用者と、元気な利用者へのケアのバランスの取り方が気になる、など課題の気づきにつながっている。外部評価結果は、運営推進会議や職員会議で報告し、閲覧できるようにしている。目標達成計画に緊急時の応急処置や初期対応の訓練を掲げ、内部研修で継続して取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、行事予定・ヒヤリ・ハット報告事故報告、利用者状況、避難訓練や災害対策について報告、意見交換を行っている。町内の他事業所の管理者の参加もあり、事業所同志の交流も深まっている。また、地域住民や家族からの意見、提案を元にサービス向上に努めている。退去後の利用者家族の参加もあり、地域に向けて事業所の取り組み、感想を伝えて下さったりと事業所の理解へと結び付いている。	会議は年6回開催し、利用者の状況や行事及び活動状況、避難訓練や災害対策、ヒヤリハット、事故報告、オレンジカフェの状況、外部評価結果等の報告を行っている。オレンジカフェの運営についての意見交換や、介護相談も含めた地域の情報交換、災害対策などについて話し合い、地域の人への声かけなど、交流の広がりに活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町担当課とは、書類提出時や電話等で不明点、事業所の現状を含め相談情報交換を行っている。	市担当者とは、電話やファックス、書類提出時等に出向いた時などに相談して助言を得たり、情報交換をしているなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議やオレンジカフェでの来所時に、オレンジカフェの運営や利用者の状況、認知症サポーター養成講座等について、情報や意見を交換をして連携を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の為のマニュアルを作成し、2ヶ月に1度の身体拘束委員会で意識の確認と随時マニュアルに基づいて研修を行い職員間で正しい理解を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。基本日中は玄関に施錠せず、外出傾向の強い利用者については、一緒に外出したり、気分転換にドライブに出掛けたり、日頃よりその方の思い誘因を探り支援に繋げたり全職員で身体拘束をしないケアに取り組み努力している。他不適切な言動については、その都度、職員間でも注意しあったり、管理者が指導している。	2カ月に1回、身体拘束委員会を開催し、年2回、「身体拘束排除のためのマニュアル」に基づいた研修を行い、身体拘束のないケアに取り組んでいる。日中、玄関の施錠はせず、頻繁に出かける利用者とも、職員はその都度一緒に出かけている。スピーチロックについて、気になることがあれば、管理者がその都度指導したり、職員間で注意し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待について研修を行い、日頃より利用者の身体・精神的な状態を十分に把握した上で異常や変化に注意し、申し送り時や職員会議を通じて情報の共有を図り防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が制度の理解に努め、研修等参加し活用出来るよう、支援に繋がたいと考えている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、改定等の際は利用者の家族が十分に納得されるまで説明を行い、理解納得を図っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に利用者と家族に説明をしている。家族会・運営推進会議参加時、面会時等に家族に意見や要望を聞いている。他、夜間遅い時間の電話やメールでの相談にも対応している。家族会では事前のアンケート、家族会後のアンケートを実施し運営に反映させている。	契約時に、相談や苦情の受付体制や処理手続き、第三者委員などについて、本人や家族に説明している。運営推進会議やお楽しみ会、家族会等の参加時や、面会、メール、電話などで家族からの意見や要望を聞いている。家族会が実施したアンケートから、職員の名前を知りたい(覚えたい)という要望があり、玄関に出勤職員の顔写真を掲示したり、職員間の情報伝達についての意見から、連絡帳の活用など情報伝達の強化を図るなど、意見を運営に反映させている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、月1回の職員会議やアンケート、個人面談で直接意見を聞く機会を設け、改善に努めている。利用者の状態、職員体制に応じ環境整備を行い、様々な改善に向け反映させている。	管理者は、月1回の職員会議やカンファレンス、年1回の個人面談、アンケート(年1回)、備品や改修に関する「要望ノート」などで職員の意見や提案を聞いている他、日常業務の中でも職員の意見や提案を聞いている。管理者がケアに関する悩みに、その都度アドバイスを与えたり、環境整備について対応するなど、意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通じ職員個々の勤務状況の把握に努め、各自が向上心を持ち続けるよう、職場環境条件の整備にあたっているが、給与水準・労働時間の条件の整備には至っていない。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には勤務の一環として参加の機会を提供し、職員会議で復命報告を行い職員間で共有し、復命書はいつでも閲覧できるようにしている。内部研修は月1回を目標に開催し、新人職員は管理者や先輩職員を指導者として、日常の勤務の中で働きながら学べるよう支援している。	外部研修は、情報を職員に伝え、希望や段階に応じ勤務の一環として参加の機会を提供し、今年は延べ年9回参加している。受講者は職員会議で情報を伝達し、復命書を閲覧できるようにしている。内部研修は、身体拘束(2回)、高齢者虐待(2回)、高齢者の特徴、認知症、インフルエンザ、感染症予防、接遇マナー、看取り、熱中症、誤嚥、初期対応等について、月1回、計画的に実施している。新人研修は、管理者が事業所理念や認知症全般について説明後、1か月間、担当職員をつけて指導し、その後は先輩職員の指導して、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等、通じて情報交換し、お互いのサービスの質の向上に役立てている。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	しっかりと本人の話に耳を傾け、伝えたい事・思いを理解、安心してその方らしい日常が送れる様努めている。また、家族からも家族目線での本人に関する思い情報収集に努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた段階より、家族の思いや、これまでの経緯、今後の要望に耳に傾け関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、ケアマネが訪問調査を行い、本人・家族との対話状況を見て、今この時必要な支援を見極め、臨機応変・柔軟な対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の状況に応じて、出来る事の支援を心掛け、一緒に食事をしたり、お茶を飲んだり、家事をしたりと、共に暮らしている者同士の関係を築く努力をしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と情報交換しながら、本人が家族に望んでいる事、家族にしか出来ない事を日頃の関わりの中から察知し、互いに協力しながら支える関係作りに取り組んでいる。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚の面会、近所の知人、職場の元同僚、趣味の仲間、馴染みの寺の住職の当の来訪がある他、電話や年賀状、手紙、ハガキのやりとりの支援の他、外出・墓参りに出掛けたり、散歩や買物で顔見知りの人に会ったり、家族の協力を得て外出・外食・美容院の利用、法事の出席、一時帰宅など馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	家族の面会や親戚の人、近所の知人、職場の元同僚、趣味の仲間(コーラス、切り絵)、馴染みの住職などの来訪がある他、電話や年賀状、手紙のやり取りなどでの交流を支援している。馴染みの美容院の利用や生家の墓参りなどを支援し、家族の協力を得て、以前に利用していたサロンや音楽会の参加、自宅の草取り、外出、外食、美容院の利用、法事へ出席、一時帰宅など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。近隣の散歩や買物で、知人に会って挨拶をしたり、立ち話をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないよう、常に目配り気配りを行い、状況に応じて良好な関係作り、関わり合いが出来るように努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご縁を大切に、必要に応じて相談支援に努めている。また、事業所の行事等にはご案内している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、何気ない会話や関わりの中で、利用者の行動や表情を「ケース記録」に記録して共有し、利用者を担当している職員が会議等で議題を出し検討し、一人ひとりの思いや意見の把握に努めている。把握が困難な場合は、家族から話を聞いたり、ご本人の思いに沿う様努めている。	入居時にセンター方式(基本情報シート等)のシートを活用し、本人や家族から情報を得ている他、日頃から利用者に寄り添う介護に努め、行動や表情を「ケース記録」に記載して職員間で共有し、利用者を担当している職員を中心にカンファレンス時に、本人の思いや意向を検討して、一人ひとりの思いの把握に努めている。困難な場合は、家族から話を聞いたり、職員間で話し合いを繰り返して、本人本意に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、ケアマネジャー等の情報収集に努め、これまでの経過等の把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方、生活のリズムや心身の状態など、ケース記録に記録し、カンファレンス会議等で伝え、全職員が現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回、ケアカンファレンスを開催し、計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心となって、家族の意見や主治医や医療連携担当看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリング6ヶ月毎に介護計画を見直している。要望や利用者の状態の変化があれば、その都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	必要に応じてカンファレンスを開催し、計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心となって、本人や家族の思いや意向を基に、主治医や看護師等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎に介護計画の見直しをしている。利用者の状態に変化が生じたときにはその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に日々の細かい日常の様子を記録し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画に活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズ、本人の状況に応じて、臨機応変・柔軟な支援、サービスに取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の子どもたち、ご近所の方の訪問、消防署職員指導での避難訓練、自治会行事への参加を通じ、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関をかかりつけ医としている他、ご本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診結果は、職員には連絡帳へ記入し、口頭にて伝え共有。家族には電話やメールで知らせている。管理者は利用者の情報を毎朝かかりつけ医もしくは看護師に報告している。緊急時はかかりつけ医の指示を仰いで適切な医療が受けられるよう支援している。	協力医療機関をかかりつけ医とし、2週間に1回の訪問診療と定期検診の支援をしている。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診結果は家族にはメールや電話で知らせ、職員は連絡帳や申し送りで情報を共有している。看護師がバイタルチェック等の健康管理を行い、管理者が毎朝、利用者の状況や家族の要望をかかりつけ医と看護師に報告し、指示を受けている。緊急時はかかりつけ医と連携し、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、利用者の小さな変化に気付ける様、日頃からの関わりを深め、気づき、不安な事を伝え適切な受診が受けられる様努力している、		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、医療機関に本人の支援法や情報を提供し、定期的に見舞いや電話連絡等で情報交換、相談を行い、関係作りを行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合における指針」に基づいて、本人と家族に説明している。実際に重度化した場合には、早い段階から本人や家族の意向にそって、主治医・看護師・職員とで話し合い方針を決めて共有し、チームで支援に取り組んでいる。	契約時に「重度化した場合における対応にかかる指針」に基づいて、事業所でできる対応について本人や家族に説明している。実際に重度化した場合には、早い段階から本人や家族の意向に添って、かかりつけ医や看護師、関係者と話し合い、方針を決めて共有し、チームで支援に取り組んでいる。内部研修で年1回、看取りの研修をおこない、今年は2例の看取りに取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事例が発生した場合、その場面に関わった職員が「ヒヤリ・ハット報告」また場合によっては「事故報告書」に、その時の様子、対応内容を今後に向けての対応策を記録し、回覧している。また、職員会議等で報告し、再発防止に取り組んでいる。年1回、消防署の救急救命法、AED講習を受講している他、内部研修で応急手当や初期対応の訓練を実施し、職員の実践力を身につけるよう努めている。	事例が生じた場合は、その場にいた職員が「ヒヤリハット報告」「事故報告書」に発生の概要や対応の状況、今後の対応等を記載して回覧している。職員会議で報告し、対応策を再検討して、利用者一人ひとりの再発防止に取り組んでいる。内部研修で、緊急時の初期対応や応急手当（インフルエンザ、感染予防、誤嚥の初期対応）の訓練を実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでにはいたっていない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の継続

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導のもの(消防署立会い年3回、夜間想定1回を含む)火災時を想定した避難訓練、避難経路の確認、通報訓練、消化器の使い方の訓練を行なっている他、事業所のみで毎月1回避難誘導訓練を実施している。	消防署の協力を得て年2回(内1回は夜間想定)、消火、通報、避難誘導訓練、避難経路の確認を利用者と一緒に実施している。毎月1回、事業所独自で風水害への対応を含めた避難訓練を実施しており、内1回は体験学習の中学生が参加している。緊急連絡網に自治会長が加わっており、自治会長は災害が予想される時は、避難準備状況の確認などで来訪している。自動火災報知器は消防署や運営者、管理者の他、近隣住民にも接続しているが、この1年は訓練に近隣の人の参加はない。	・地域との協力体制を築く取り組みの継続
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、自尊心を傷つけないよう、またプライバシーを損ねない言葉遣いや対応をしている。不適切な対応があれば、その都度管理者が指導したり、職員同市でも注意し合っている。個々記録の取扱いには留意し、守秘義務は徹底している。	理念やユニット目標に掲げると共に、内部研修で接遇について学び、職員は利用者に尊敬の念をもって接し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に心がけている。不適切な対応があればその都度、管理者が指導したり、職員間でも注意し合っている。守秘義務を遵守し、個人情報の取扱いに注意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の勝手な判断で取り決めず、利用者様の生活歴・習慣等の把握に努め、日々の関わりの中から本人の希望を探し、一人ひとりの能力に応じた自己決定できる場面作りに努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員間で協力しながら、その日の天候・体調・気分を察知し、出来る限り本人の思い、希望に応じた一日を過ごして頂けるよう、上手に思いが口に出せるように努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師が来設し、カット・パーマを実施。また、行きつけの美容院へも行く事が出来る。洋服選びも様々な事を考慮して一緒に選び、誕生日にはメイクするなど、おしゃれへの支援に繋げている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	三食とも事業所で調理し、事業所の畑で取れた野菜や近所からの差し入れの野菜など旬の野菜を使っている。献立は栄養士が中心に行い、利用者の状況に応じ刻み・トロミ・ミキサー食の対応もしている。健康面に配慮が必要な方が増え、栄養士の献立を基本としているが、利用者の状態・要望に対して柔軟に対応し、内容を変更する場合もある。また、おやつ作りも利用者と一緒に楽しみながら行っている。両ユニット共に、時にはお弁当や、外食支援を取り入れ、いつもと違う楽しさを持てるよう支援している。	利用者の食べたいものを聞いて、栄養士が献立を立て、畑で収穫した野菜や差し入れの野菜を使って、三食とも事業所で食事づくりをしている。きざみ食、とろみ食、ミキサー食など利用者の食べやすい形状で提供し、晩酌など利用者一人ひとりが楽しめるように工夫している。利用者は、食材の買い物、盛り付け、台拭き、茶わん洗いなど、できるごとを職員と一緒にしている。利用者と職員は会話を楽しみながら食事をしている。月1、2回のおやつづくり(芋きんとん、パフェ、ホットケーキ、プリン、フルーツポンチ、どら焼き、桜餅、白玉ぜんざいなど)、季節の行事食(おせち、七草がゆ、鏡開き、恵方巻、ひな祭りのちらしずし、そうめん、月見団子等)、誕生日の利用者が食べたい献立とケーキ、道の駅やドライブ先での食事、外注の弁当(花見、家族と一緒にのお楽しみ会)、家族の協力を得ての外食など、食事に変化を持たせ食事を楽しむことができるように支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状況に応じた形態で食事を提供。摂取量は日々ケース記録に記入し、小まめな水分補給を心掛け、外出時・レク後・入浴後、夜間時の水分補給を行っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態・能力に応じて、毎食後の口腔ケアの支援を行っている。また、歯科医受診・往診の際、専門家のアドバイス等を受ける様努めている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表による一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、声かけ誘導にて、トイレでの排泄、自立に向けた支援を行っている。	「ケース記録」を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。昼夜問わず尿意を訴えられる利用者にも、その都度、トイレ誘導をして、トイレでの排泄を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を参考に、排便サイクルの把握に努め、食事での食物繊維や乳製品の摂取を心掛け、毎日の体操・臀部マッサージ等で一人ひとりに応じた予防に取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日可能。利用者の体調に応じ10時～19時までの間に一人ひとりがゆっくり入浴が楽しめるように支援している。体調によっては、個別に清拭・シャワー浴・ドライシャンプーの支援をしている。利用者によってはリクライニングシャワーキャリーを使用することもあり、ご本人の負担、安全を第1に考え対応している。入浴を無理強いせず、楽しんで入浴出来るよう、入浴剤を使用したり、音楽をかけたり、人形と一緒に…等工夫をしている。入浴したくない方は、職員を替えたり時間をずらしたり、言葉かけを工夫したり支援に結びつけている。	毎日、いつでも入浴でき、週に3回以上入浴できるよう支援している。音楽を流したり、入浴剤の使用や季節の柚子湯など、雰囲気を変えてゆっくり楽しめるように支援し、利用者は職員と会話を楽しんで入浴している。利用者の体調に合わせて、リクライニング式シャワーキャリーを使うなどするシャワー浴、清拭、足浴、手浴、ドライシャンプーなどで対応している。入浴したくない人には無理強いせず、時間をずらしたり、職員を交代する、人形と一緒に入るなど、個々に応じた対応を工夫している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況、生活習慣に応じ、就寝・起床時間を支援している。また、体調等配慮しいつでもゆっくりと自室で休めるように支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在、かかりつけ医療機関の看護師が初期段階の服薬セットを行い、引き渡された後、改めて服薬管理一覧表を基に管理の徹底、目的・副作用の理解に努めチェック段階において確認の強化と誤飲防止、飲み忘れが無いように支援している。また、薬の変更時には経過観察を徹底している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花や畑の水やりや草取り、買物、調理の手伝い、盛り付け、食器洗浄、台拭き、洗濯干し、洗濯畳み等の他テレビ視聴、新聞、雑誌、写真を見たり音楽を聴き、歌を歌ったり、季節行事を楽しんだり家族、知人、友人とのふれあいやボランティア来設、地元高校生との交流、園児とのふれあい、オレンジカフェ等、活躍できる場面、気分転換の支援を行っている。	誕生日会、季節の行事(カルタとり、豆まき、ひな祭り、七夕、ハロウィン、クリスマス会など)、家族とのふれあう家族会(お楽しみ会)、オレンジカフェでの交流、ちぎり絵、折り紙、トランプ、ぬり絵、テレビの視聴、キーボード演奏、歌を歌う、手遊び、新聞や雑誌を読む、晩酌、おやつづくり、食事の準備や片付け、花や畑の水やりや草取り、野菜の収穫や植え替え、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、モップかけ、ボランティア(フラダンス、コーラス、ハーモニカ、尺八、フルート演奏、懐メロバンド演奏)や園児、小学生、中学生、高校生との交流、メダカや亀の飼育など、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣、買物、季節の花見、ドライブ、地域行事(敬老会、ほたる祭り、夏祭り、文化産業祭)美容院、コンサート、近所の散歩や外気浴、家族の協力を得ての外出、外食、墓参り、ふるさとへのドライブ等利用者の希望に添って戸外に出られるよう支援している。	初詣、季節の花見(梅、コスモス、紅葉など)、地域行事(敬老会、ほたる祭り、夏祭り、文化産業祭など)、ドライブ(角島、道の駅、俵山温泉、受診の機会を利用した自宅周辺等)、外食、美容院の利用、食材や日用品などの買物、日常の散歩や外気浴、家族の協力を得ての自宅の草取り、一時帰宅、墓参り、外出など、利用者の希望に沿って戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒にスーパーや道の駅に買物へ行き、支払いをしていただいたり、本人が欲しい物、必要な物がある時には買い物に出掛ける支援に繋げている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞い等日常においても手紙、ハガキを書き、家族へ送ったり電話の支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングに季節の花や、その時季に応じた装飾を施し、日頃から季節感が伝わるように努め台所からは食事を準備する音や匂いが五感を刺激し生活感を感じる事ができる。また、ソファ、椅子を多く配置し、一人ひとりが思い思いの場所でゆったりとくつろげるよう居場所づくりを行っている。壁のボードには利用者の飾らない日常が垣間見える写真を掲示し、利用者と訪問者(家族、友人、知人)のコミュニケーションが自然に図れるよう努めている。温度、湿度、換気に配慮し居心地よく過ごせるよう工夫している。	玄関やリビングに差入れの花など季節の花を飾り、天窓や中庭からの採光で、広々としたリビングは明るい。ガラス窓にイチョウの葉が風に吹かれてるかのような貼り絵を飾り、壁には利用者と一緒につくった干支の貼り絵や日常の様子を写真を飾っている。窓からは近くの町並みや里山の風景が広がっている。一角に畳の間が設けてあり、廊下やリビングにソファを配置して、利用者は思い思いの場所でくつろいでいる。利用者もひくことがあるというキーボードも置いている。対面式の台所からは調理の音や匂いがして生活感を感じることができる。室温、湿度、換気を調整し、居心地よく過ごすことができるよう配慮している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・椅子・屋外にはベンチを設置し、その時の思いに合う居場所の工夫をしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際よりご本人、家族と相談しながら、テレビ、ダンス、カラーボックス、椅子、時計、写真、小物等ご本人の使い慣れた物や、大切な物を持ち込み、生花やカレンダー、誕生日のメッセージカード等飾って居心地良く過ごせるよう工夫している。	寝具やダンス、テレビ、冷蔵庫、衣装ケース、衣類かけ、机、椅子、スタンド、カラーボックス、加湿器、温湿度計、時計、位牌、手鏡、化粧品、人形、ぬいぐるみ等使い慣れたものや好みのものを持ち込み、生花やカレンダー、家族や利用者の写真、誕生日の色紙、本人の作品等を飾り、利用者にとって居心地のよい空間となるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、玄関の扉は引き戸で手すり設置の充実や共用部分のトイレ・浴室には表示を施行している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム豊田

作成日: 令和 2 年 4 月 27 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	15	○事故防止の取り組みや事故発生への備え 全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	全職員の実践力向上	定期的な応急手当、初期対応の訓練の実施	12ヶ月
2	16	○災害対策 地域との協力体制の構築	災害時における地域との協力体制の構築	各災害時想定訓練の実施 地域住民協力者の確保 (若い世代の住民への理解と協力)	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。